

2020年度文系チャレンジ講座（第3回）を実施しました

7月15日（水）に経済学部矢野英子先生を講師に迎え、『ケルズの書』から英語の歴史を覗いてみよう」というテーマで、文系チャレンジ講座の第3回を実施しました。遠隔配信した日田、竹田、大分鶴崎、中津南、大分商業、国東、白杵、大分雄城台、別府翔青、大分西の10校198名が受講しました。

講義の初めに、今回の講義において「英語の周辺の歴史、文化を知ること、英語の学習を楽しくすること」と「いろいろな学問の分野があることを知り、興味のあるものを探ること」を目的に挙げられました。



「ケルズの書」はいったい何のために作られたのか、どうしてこんなに美しいのか、なぜこんなに心惹かれるのか……。画像に映し出された「ケルズの書」は、きらきらと輝く本当に美しい「本」のようです。受講生たちは早速、講義に引き込まれた様子でした。

「ケルズの書」は、西暦800年頃にラテン語で書かれた、聖書の手写本です。3大ケルト装飾写本の1つで、アイルランドの国宝、「世界で最も美しい本」と呼ばれているそうです。様々な民族が侵入、争いを続ける厳しい時代の人々の心に信仰と安らぎを伝えるため「ケルズの書」

が生まれました。輝くばかりの美しい装飾は、まだ字を読むことを知らない人々に、キリスト教の教えを視覚的に伝える役割があったと言われています。背景であるアイルランドとイギリスの歴史や言語を始め、辺境の小さな島であるアイルランドでキリスト教や学問を学び、さらにそれをイギリス、ヨーロッパへも広めようとした修道士たちの話をお聞きしながら、まだ印刷技術がない時代にただ黙々と日々福音のことばや学問書を書き写し、美しい挿絵を描いた人々の暮らしの様子を思い浮かべました。説明では、特殊な手書き文字や多様なケルト模様の装飾、挿絵のデザインや着彩にも触れ、この書を見た人々が受け取ったであろうメッセージ、さらには、1200年もの前の作り手たちの生き生きした人間らしさにも思いを馳せました。様々な困難を乗り越えて生き延び、はるか現代の私たちに手渡された美



『ケルズの書 THE BOOK OF KELLS』より

しい「ケルズの書」は、まだまだ研究によって解明されていく点が残されており、英語圏文化の歴史の一端を垣間見る喜びを私たちに与えてくれています。

最後に受講生徒からの質問に答えて英語の学習方法について、いくつかのアドバイスをいただきました。「英語に関わる好きなことをみつけ、そこから英語への興味を育てて学習意欲につなげましょう」と、生徒たちへたいへん大きなエールを送っていただきました。



講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（95%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（97%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（99%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（95%）、「映像はよく見えた」（93%）という結果が出ました。